

湖都通信

看護学科版

02

Coto Tsushin
[Nursing subject Version]

2016. 4. 1

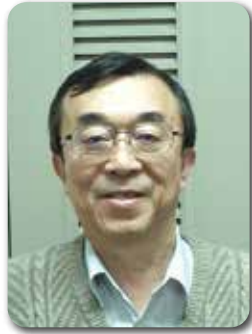
滋賀医科大学同窓会「湖医会」



CONTENTS

退任教授あいさつ	森川茂廣・畑野相子	2
恩師からのたより	竹尾恵子・和田恵美子	4
会員からのたより	小山智史・岡本真優・高山 充・林 崇子・岩島エミ	6
海外からのメッセージ	伊藤麻友香	10
懐かし便り	白石知子・西尾ゆかり・山下 敬・山地亜希	12
支部会 滋賀支部	山下 敬	17
看護学科交流懇談会	谷本健斗・藤井みどり・野津瑛未奈	18
事務局から	総会議事録 ほか	20
編集後記	西尾ゆかり・山地亜希	20

基礎看護学講座（形態・生理） 分子神経科学研究センターMR医学研究分野（兼任） 教授 森川 茂廣



滋賀医科大学には、平成元年の分子神経生物学研究センター開設以来、27年という長きにわたりお世話になりました。センターの教員は、学部教育には関わらずに研究に専念せよというのが原則で、看護学科に移動するまでは、医学科の講義は、物理の1コマでMRの話をさせていただいた程度で、MRの研究で一緒にいた方は別として、長期間在籍しているのに、湖医会の皆様とは、ほとんど接点がありませんでした。看護学科に移動して7年になりますが、私の担当は、解剖・生理学とフィジカルアセスメントの講義で、すべて1年生の科目ですので、自分が講義を担当した看護学科16～18期生の3年間の卒業生がようやく湖医会のメンバーとなって働いています。最近は附属病院を歩いていると、顔見知りの若い看護師さんを見かけるようになりました。介護保険の被保険者証が届き、年金受給の歳になった自分にとっては非常に心強く思えます。

私は、京都の西陣の生まれで、大阪に勤務していた数年間を除いてずっと京都で暮らしていましたが、本学に勤務するようになり、20数年前に大津に引っ越してきました。滋賀は水と緑の自然に恵まれた本当にいいところで、琵琶湖花火大会や大津祭りなどの年中行事も間近で楽しみ、今は滋賀県人としてこの地が大いに気に入っています。ただ一つ、比叡山は京都か滋賀かという点が問題です。京都の町中から見ると比叡山は高く聳える山で、小学校の社会科では、京都で一番高い山と習った記憶があり、子供時代は八瀬からケーブルカーとロープウェイで上ると山頂遊園地があるというイメージで当然「京都の山」でした。これに対して大津から見ると、比叡山から奥比叡、延暦寺から横川へと続く山並みのような別の姿となり、滋賀県人にとっては、比叡山といえば延暦寺、霊峰というイメージがあるようです。この話になると大津生まれの妻と二人の子供は、「比叡山は滋賀の山に決まっている」と主張し、私は非常に分が悪くなってしまう。定年後は少し時間をとって、まだ知らない滋賀を楽しみ、「比叡山は滋賀の山」と心から思える滋賀県人になればいいと思っています。

長い間お世話になりありがとうございました。

定年を迎えて —滋賀と京都と比叡山—



京都の加茂川堤から見た比叡山

臨床看護学(老年看護学) 教授 畑野 相子

私は、看護の仕事に携わって約40年になります。東京と福井に身を置いたこともあります。ほとんどを滋賀県で過ごし、最後の4年間を滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座老年看護学領域でお世話になりました。「たった4年間」「されど4年間」です。この間に多くの人と出会い、学び、様々なことを気づかせていただきました。

学生さんは、2年から3年、3年から4年と進級する中で、確実に顔つきが変わっていき、その変化が手にとるようにわかりました。そして、臨床で働いている姿はまぶしいばかりです。知識を身に付け、それを駆使し、人の役に立っていると実感できることは素晴らしいことですね。

「患者さんの力ってすごいですね。」「手を出しすぎても駄目で、その人の力を生かした看護が本当に大事だと実感しました。」と目を輝かせて語ってくれた学生さんの声が忘れられません。また、「趣味の俳句の話をしたら、にこにこされるんです。そしてリハビリも意欲的になられたのです。」と報告してくれる学生さんに、「それは何故だと思う」と聞くと「強みを生かすことができたのだと思います」との嬉しい返答。やはり、学ぶ主体は学生さんで、私は、「なぜ?」「どうして?」を繰り返しただけだったように思います。人をテキストにして、何事にも好奇心をもって、体験を知識と結びつけ、ますます羽ばたいて欲しいと思います。

滋賀について一言。私は、毎日比良山系を見ながら、桜やメタセコイア並木を通して出勤していました。四季折々に姿を変え、雄大にして上品な比良山系や美しい並木にどれだけ癒されたことでしょう。滋賀県の中央に琵琶湖がどっかり位置を占め、近畿の重要な水瓶となっています。その周囲に人々が住み、東西南北では気候も暮らしぶりも異なります。それがまた滋賀の魅力の1つで、私は滋賀が大好きです。滋賀を去られる人もおられるでしょうが、苦しい時も楽しい時も滋賀の地で学んだことを思い出していただきたいと思います。

最後に、長年看護に携わってきて、看護の奥の深さを感じ、看護の神髄に達することは難しくても、近づく努力は続けたいと思っています。

今後、湖医会のますますの発展を願って退任の挨拶とします。



看護に携わって 思うこと



滋賀医大 看護学科卒業生の皆様へ

佐久大学学長 竹尾 恵子



滋賀医大の看護学科立ち上げに当たって、滋賀医大へ着任したのは1993年7月頃、ほぼ22年前の事となります。第一期生が入学してきたのは翌1994年4月でした。長く東京近辺から出たことのなかった私が初めて外の世界を経験することになったのです。滋賀医科大学は国立医科大学の中では最も早い時期に看護学科を立ち上げた大学で、その立ち上げに関わらせていただいたことは大変ありがたかったと思います。当時、看護学コースを持っている大学は日本全国で11～12校だったように記憶しています。その後、急速に大学での看護学教育プログラムが増加し、いまだにその勢いは止まっています。2015年のデータで看護系大学は250校を超えたようです。当時はまだ大学では看護の教授になる看護系人材が少なく、それでも、滋賀地域の看護職の方々の努力で、教育体制を整え、看護学科が立ち上がったのでした。看護学科のための校舎は当時まだなく、事務棟に部屋を間借りし、そこで2～3年間過ごしました。宿舎は大学のキャンパスから道路一つ隔てたすぐそばにあって、窓からは琵琶湖はもちろん、遠く比叡山を展望することができ、遠い地に単身で赴任した私を日々楽しませてくれました。

初めて入学してきた学生に講義をしたときの感想ですが、学生たちがひどく若く、幼く見えたのを記憶しています。きっと、それまで私が担当した学生は大学3年生で、1～2年間の教養課程を経てから、看護学のコースに入って来ていましたから、この2学年の差が大きく影響していたのでしょう。今思えば、さまざまな個性を持った学生が在学していて、その後も看護の道で活躍している滋賀医大の卒業生を見るのは、教育に携わる者にとって他に得難い喜びとなっています。当時の卒業生たちは今や、臨床現場において、また、教育や行政の場において、大きな力を発揮してくれていることでしょう。大学で看護学教育を受けた皆さんが、看護を自立した学問領域として守り育ててくれることを期待しています。加えて、これからの看護学は時代の変化に対応していかなければなりません。その一つが「国際化」という大きな流れではないでしょうか。看護は国際的に繋がっていて、世界と結んでさまざまな研究や教育を成し遂げていくことができます。視野を広く世界に向け、卒業生の皆さんが大きく羽ばたいてくれることを願っています。

私についていえば、昨年秋の叙勲で、瑞宝中綬章をいただきました。これからは無理せず、私にできる事を続けながら余生を楽しみたいと思っています。 長野県 佐久市にて



ともに学び歩む者として

京都学園大学健康医療学部看護学科 准教授
和田 恵美子

今年は、これまでに類を見ない暖冬であるとニュースにありました。

このたび、同窓会誌「湖都通信」看護学科版に寄稿させていただく機会を頂戴し、本棚から卒業アルバムを取り出すとともに、前本誌創刊号を拝見することができました。20年近く経った懐かしい校舎、廊下、掲示版などの写真をリアルに見比べながら、17期にわたる幹事の方々のお名前を拝見しますと、脈々と受け継がれた歴史、そして社会に貢献しうる人材の輩出という貴大学の果たしてこられた役割に思いをはせるところです。

私は今、「先生の在職時に1回生でしたよ!」と「歴代」男子学生さんのお名前をそらで読みあげる卒業生の方とデスクをともにさせていただいています(5期生山下敬さん、本会副会長)。さらには、日々の業務と格闘する同僚として2期生河田志帆さん、また学会にて再会の歓喜に沸いた2期生星智子さん、本誌編集の労をとっておられる2期生西尾ゆかりさんはすでに研究者であられ、ほかにも全国でご活躍の皆さんがおられることを伺っています。

瀬田の地には、1997年から2年間、成人看護学講座の助手としてお世話になりました。看護師勤務の直後であつた私は、さほど齢も変わらない3年生、4年生の皆さんにほんの少し先の経験を伝えていたにすぎないと反省しきりです。しかし、皆さんから頂いた日々の思い出は私の礎であり、その方々と有形無形のものを作り上げられる今を振り返ると、教育とは人の歩む道のほんの一瞬の伴走者でしかなく、またそれでよいのだということを再認識させてくれるような気がいたします。

看護学科、あるいは全国の看護系大学が走り始めて20年を経過した今でさえ、看護・医療の世界は激動であるといわれます。変わりゆく科学の世界、また変わらぬ人々の日常の営みに医療人として、一人の社会構成員としてどうあるべきかと考えあぐねる日々ですが、そこに同窓生、同時代を過ごした仲間から与えられる力ほど心強いものはないと感じます。これからも時に立ち返られる心のよりどころとして、貴会のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

シクタノカステイマキ!? リャソーロイロイデルアショウ!!!

佐久大学 看護学部 成人看護学 講師

小山 智史 (看1期生)

(GReeeeN / OH!!! 迷惑!!!!より引用)



職場からの風景「浅間山」



左から2番目が小山です

冬一日中氷点下、こんなことがしばしばある街で今働いています。“寒い”というより“痛い”。6年もこのような環境で働いていると「-1℃」と「-10℃」の違いが分かる漠になりました。「-1℃」が温かい。

二十数年前、「湖都通信」に寄稿すると誰が予想していただろう?と書いた自分が一番予想していませんでした。卒業後、1~2回母校に行きましたが、ここ十数年は新幹線から「あの辺かなあ?」とヤンマー坂(今でもこういうのか不明だが)を見るたびに眺めています。今思うと碌でもない学生でした。提出物の期限が“日付”指定だった場合、「○月△日は23時59分59秒までだよなあ」と勝手にマイルールで、深夜(あえて時間は書かないが)、教員の研究室のドアに張り付けて提出、講義は日数を計算して欠席、呼び出しの掲示を確認しておらず、同級生に指摘される…悪事を数えると切りがありません。今の私なら「てめえ、ふざけてるんかあ!」と憤慨すること間違いなし。が、当時を思い出すと、学生たちが少々悪事を働いても、因果応報と受け止めるしか…。(教員をしていると襲われるジレンマか?)。

臨床で働いていたとき、東京のとある病院で滋賀医大看護学科卒業の男性看護師が4人同時期に働くという珍事がありました。今はそのメンバーもバラバラに。たぶんそれぞれ元気にやっているのだろうと勝手に解釈しています。「1期生として後輩のために道を造りましたか?」と問われれば、「“この時”ぐらい。あとは何もやってません。」と堂々と言ってしまいそうな自分を恥ずかしく思います。創刊号を拝読、卒業生が多面で活躍していることを知り、「すごいなあ」と感嘆。刺激を受けた勢いでこの文章を書いています。

タイトルの得体のしれない呪文は最近ハマっている言葉。皆さんと共有したいと思い引用しました。並べ替えると「楽しく生きてますか!? そりゃーいろいろあるでしょう!!!」。



佐久周辺で行われているイルミネーション



最近の若者は…

東邦大学 看護学部看護学科 助教

高山 充 (看4期生)



卒業してから10数年が経ち、大学時代を思い出そうとしても断片的な記憶ばかりで困ってしまいます。当時私はポート部に所属してほぼ毎日練習していたため、勉強の記憶という思い出すのが不可能に近いレベル…。最後まで投げ出さずに不真面目な私にお付き合いくださった先生方には、一生頭が上がリません。本当にすみませんでした。そして、ありがとうございました。

そんな私が今では学生に看護を教えているというのは何とも申し訳ない気持ちになります。「最近の若者は…」というのはどちらかというとネガティブな意味で使われることが多い

育児から復職へ、リハビリ中



岡本 真優 (看護3期生)



私が本学を卒業したのは、ちょうど2000年。あっという間に15年が過ぎてしまいました。現在は小学1年生と5歳の2人の男の子の母をしています。

私は地元の大学病院と民間病院の勤務を経て、本学成人看護学教室の助教を約5年間させていただきました。そして出産を機に看護職から一旦退くこととなり、看護職から離職することに多少の戸惑いもありましたが、いざ出産して育児が始まってみると、復職する余裕は全くなく、気が付けば6年という時間が過ぎていました。

そんな中、元同僚からお話をいただき昨年度より某大学看護学部で実習補助教員をさせていただいています。まだ、育児が中心の生活ではありますが、月5～6日というペースで、夫や実母の支援も借りつつ子どもとの時間をやりくりして仕事ができる環境に感謝しています。実習先ではかつての教え子がスタッフとして働いていて再会し、再び未来の看護職者の育成に携われたことがとても嬉しいです。

6年間のブランクはありましたが、妊娠出産、育児は、私の人生の幅を大きく変えてくれたかけがえのない時間です。それまで子どもと接するのが苦手だった私にとって、赤ちゃんの息子は怪物にしか思えず、抱っこしても寝ない、のけぞって大泣き、ベビーカーから落ちそうなくらい暴れる……。それまで私は、赤ちゃんはしつければ良いと思っていた概念が払拭され、なんて浅はかな考えを持っていたんだ、と思い知らされました。

育児を通して、子どもに対する接し方、妊婦さんや子連れのママさんの気持ちなど、今まで気が付かなかった部分も大いに理解できるようになり、優しく見守れるようになりました。息子達と一緒に成長して得た経験は、私の人生の宝です。この経験が、看護職者としての今後の自分にも生かすことができるようになればと思います。まだまだ育児との両立が続くので、本格的な復職とはいきませんが自分のペースで無理なく復職リハビリをしていきたいと思っています。

かと思いますが、学生時代の私と比べると、最近の学生はまじめで誠実で、そして教員に対してシビアです。

臨床から看護教育の現場に移って6年目になりますが、学生の期待や要望に応えることがこんなにも大変かと日々痛感しています。知識を詰め込むだけでは学生は伸びませんし、露骨に面白くなさそうな顔をします。しかし看護に対して、一度でも「面白そう」「なんかすごい」と思う体験をした学生は、放っておいても勝手に伸びていきます。ただ、そのためには私自身が学生に強烈なインパクトを与えるだけの能力を求められるわけであり、その能力が不足している現実

自分が打ちのめされるわけです。圧倒的な知識、臨床能力、研究能力、熱意、などなど、学生が教員に求めるものはどうやら大変厳しく、さぼることは許されなさそうです。

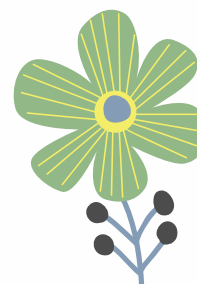
学生時代にさぼったツケは就職3年目くらいで払い終わってたつもりになっていましたが、まさかこの歳で追加徴収されるとは思いませんでした。

若い人たちが、がんばっといた方がええみたいです。わたしはこれからがんばります。

養護教諭として今、考えること



林 崇子 (看5期生)



私は滋賀医科大学に3年次編入生として入学し、看護学科5期生として卒業しました。卒業後は岐阜県公立学校の養護教諭として働いています。

初任校は肢体不自由の子どもたちが通う特別支援学校でした。120人ほどの子どもたちの疾患や障害を理解することに始まり、子どもたちを預ける家族、それを取り巻く教員がそれをどう捉えているか、養護教諭に何が求められているのかを掴み、そして自分に何ができるかを考えた日々でした。こうした私の悩みをよそに、子どもたちはとても純粋で穏やかでした。

特別支援学校で3年間勤務した後は、大学進学を目指す生徒約1200人が在籍する高等学校に異動しました。思春期を経て自立した大人への移行段階にある生徒たちの悩みをきき、相談にのり、心身の自己管理能力を育成するための指導に重点をおいて毎日を過ごしています。

この仕事をしていると、生徒、教員だけでなく、保護者、医師など、色々な立場の方と接します。立場が違えば考え方・価値観も違い、教員の中でもそれぞれにバックグラウンドが異なります。同じ子どもに対しても、支援の言葉の意味合いが変わってきます。子どもたちの解決すべき目標が同じであっても、このようにアプローチの仕方も多様で、時には養護教諭として受け入れ難いこともあります。

人の考え方や価値観を理解するのは容易ではないですが、貴重な経験になります。また、それらを理解し尊重することで良い人間関係が生まれ、子どもたちの未来について一緒に考えられると思います。今後も人との出会いを大切に、自分自身を磨き、子どもたちとともに成長していきたいです。



保健体育科の明るい先輩方に支えられて頑張っています(前列中央)

看護学部 of 教員になって



京都橘大学看護学部 助手
岩島 エミ(看護13期生)

看護学部13期生卒業生 岩島エミです。

私は、大学を卒業後の約5年間、病棟看護師として勤務していました。その後、平成27年4月から京都橘大学の看護学部で教員助手として働いています。現在は、主に地域看護学領域での実習に引率し、看護学生に対して実習指導を行っています。

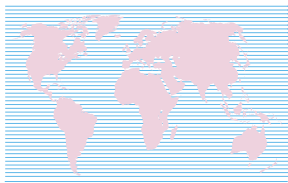
滋賀医科大学附属病院で看護師をしている際に、プリセプターとして1年目の新人看護師への指導をしたことや日々の受け持ち看護師として学生と関わったことはありますが、看護学生に対して実習指導をしていくことはほとんど初めての経験でした。身だしなみや挨拶などの基本的な事柄についても指導が必要であり、「学生に指導すること」の難しさや責任感を痛感している日々です。

自分自身が看護学部の教職員の一員として働いていく中で、看護学実習を行うためには、患者さんや地域の方々をはじめ、実習施設の方々、教員等、本当にさまざまな人たちの協力があり、実習を経験することができたのだということを再認識することが出来ました。また、学生に指導していくためには自分自身の知識や技術、看護観についても、より一層高めていく必要があることを改めて実感し、日々邁進しております。

「成績の良い看護学生」でも「仕事のできる看護師」でもなかった私が今も看護職として働き続けることができているのは、滋賀医科大学看護学科の先生方や附属病院の先輩看護師、同期の友人たちに支えていただいたおかげだと思っています。その周りの方々への感謝の思いを抱きながら、これから夢の実現を目指していく看護学生との関わりへとつなげていきたいと思っています。

最期になりましたが、滋賀医科大学の更なる発展、同窓生の皆様の益々のご活躍を願いまして、結びとさせていただきます。





つながりに感謝

伊藤(旧姓:山田)麻友香(看13期生)

私は、現在タイのバンコクに住んでいます。

大学を卒業し、タイの日本人学校で3年、京都の私立学校で2年、養護教諭として勤務した後、昨年、タイ時代に出逢った駐在員の夫と結婚し、再びバンコクに来ました。

1度目のタイ生活は、仕事中心で過ぎていきました。新卒で1人職、学校も開校2年目の新しい学校で前例のないこと続き。職場の先生方には本当に支えてもらうことばかりでした。歴史が浅い学校ならではの職員の一体感があり、教員一丸となって何かを創りあげていく楽しさややりがいがありました。

京都では、規模も対象もこれまでと違う学校に、初めは戸惑いの連続でした(後々、『養護教諭として大切なことの基本はどこでも変わらない!』ということに気づくのですが。)。さらに、この学校では生徒寮で生徒との共同生活。学校でも家(寮)でも生徒と一緒にという貴重な経験を、毎日濃厚な2年でした。

2度目のタイ生活。タイの温暖な気候に呼応するように、タイの方々は笑顔で、フレンドリー。医療の質や住環境、交通事情は以前よりも向上していますし、タイ料理はもちろん安くて美味しいです。日本食のレストランも多く、日本の調味料や食材もたくさん手に入り、とても住みやすい環境です。ただ、言葉や習慣の違いはやはり大きいです。私は2回目のタイ生活なので、比較的スムーズにこちらの生活をスタートすることが出来ましたが、買い物一つとってもタイ語や英語ですし、日本と売り方が微妙に違ったりして思うように必要なものを買えないことがありました。また、のんびりで細かいことを気にしないタイの方々の気質は、日本の感覚では『え?』と思うことが多いかもしれません。しかし、その違いを理解して楽しみたいと思っています。こちらならではのこともしようと、タイ語教室や、タイ料理教室などに通い、そのつながりで友達もできて、ランチに行くことも。最近は、ピラティスで体を鍛えていま



タイの保健室で

す(笑)週末には夫と、共通の趣味であるダイビングに行ったりもします。

大学から、現在まで私はとても人に恵まれています。この大学に入学してかけがえのない仲間に出逢ったこと、タイや京都での素晴らしいたくさんのお逢い、一番近くで私を見守ってくれている家族、今の私があるのはこれらたくさんのご縁のおかげで、全てつながっているのではないかと感じています。

結婚式の際、タイ時代の校長先生からスピーチでいただいた『3年間でどこに出しても恥ずかしくない職業人として成長してくれた』という身に余る最高の褒め言葉を胸に、仕事を離れて海外にいる今だからこそ、自分を見つめ、これからの人生、私を支えて下さる方々とのつながりを大切に生きていきたいと考えています。

瀬田駅から滋賀医科大学へ向かう学園通りの、かつて「ヤンマー坂」と呼ばれたところは宅地開発され、琵琶湖へ向かう湖岸道路近くにはショッピングモールが建ち、大学構内も新しい棟が建って…と、大学や周辺地域は大きな変化を遂げています。湖都通信看護学科版の編集企画の検討中、大学生時代の思い出のあの店やら…あの場所やは、『今どうなってるん?』という話から、『現在の様子をレポートしてみてもいい?』という新たな企画を立ててみました。初回は、編集メンバー4人が学園祭に参加してきましたので、その様子をレポートします!

登場
人物

白石(1期)、西尾(2期)、山下(5期)、山地(6期)

懐かし 便り 1



ピロティで待ち合わせ

白石(1期生)：本当に久しぶりの学園祭(10年ぶりか…?)、ピロティで看護学科同窓会幹事の西尾ゆかりさん(2期生)、山下敬くん(5期生)、山地亜希さん(6期生)と待ち合わせ。現在も滋賀在住の私はあまり感じませんでしたが、西尾さんと山地さんから会うなり「滋賀寒?い!!」と言われ…。学生時代から、滋賀医大だけは“高山気候だよね”とクラスメートと言っていたことを思い出しました。

西尾：いやー、本当に寒かったです。今年は暑いくらいの秋でしたが、瀬田駅で電車から降りたとたん、発した言葉が「さぶっ!」でした。医大へ到着するとさらに寒さは増しましたね。ピロティなんて寒いなの。山地さん、凍えてませんでした? (笑)

山下：学生の時も、毎年学祭の時期になると急に冷え込んでた印象です。いやあ、寒かった。

メイン会場:水上ステージ

さて、学園祭には恒例の水上ステージ、各クラブの出店があり、人も多くて活気づいていました。

西尾：天気は快晴でしたね。地域の方や他大学の学生さんもたくさん来られていて、とてもにぎやかでしたね。



白石：クラブの出店は、ラグビー部名物のたこ焼きは大人気のため、追加注文待ち。待っている間、テニス部のシチュー、柔道部の塩焼きそばをいただきました！

西尾：どれも美味しかったですね。昔、柔道部っておでんじゃなかったっけ？でも塩焼きそばもイケる！

山下：ハンド部のから揚げも美味しかったですよ～。相変わらずでした。

白石：テニス部のシチューおいしゅうございました！滋賀の寒さを吹き飛ばして暖かくなりましたね。私たち看護1期生の時は、テニス部は福利棟2階でバーをしていた古い時代なんで、とっても新鮮でした。

山地：昔とテントの位置が全然違う…探して歩くのも楽しかったですねー。私たちの時代の準備も、大変でしたけど楽しかったですね。

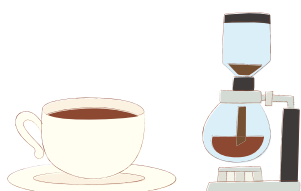


福利棟

西尾：福利棟も内装が変わっていて驚きました。なんとなく、薄暗ーいイメージの福利棟入り口でしたが、今はとても明るい入り口になってますね。中もいろんな企画があって、学生だけでなく、地域の方の出展がありましたね。



白石：福利棟入ってすぐ右手に生協の売店がありました。教科書や参考書、お菓子などが置いています。私なんて学生の時、足をねん挫して松葉杖で福利棟2階に本を買いに行って…。あの時はとっても大変だったけど、今は福利棟の中にエレベーターもできていたし、本当に便利になったわ!



西尾：学生さんの親御さん?主催のカフェではコーヒーと、バレ部のたい焼きを美味しくいただきました。って、また食べてる!(笑)

山下：ホンマ、食べてばっかりやな…山地。

山地：ばっかです…(笑)。たい焼きにカスタード味ができていて、感動!

白石：食堂もリニューアルしました。

西尾：ピロティー前もきれいになって、オープンカフェみたいになってましたよー。色々キレイになったり新しくなったり、驚きと感動で、山地さんと思わず飛び跳ねました。

白石：山地さん…飛んでいるか？

山地：吊るされたカエルではありません…
(汗)。



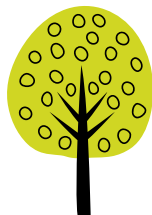
左:西尾幹事(2期生) 右:山地幹事(6期生)



動物園

西尾：学生時代、ピロティ横で動物園があったけど、今は駐車場になったところでやってたね。ちびっこたちに紛れて、うれしそうにアルパカと触れ合ってきました。

山下：白白白…。がっつきかぶってますな。どれがアルパカなんだ？



屋内企画:におい調査?

白石: 山地さんは全問正解でしたね。新しい特技を見つけたようでしたよ～。学園祭ではいろいろと発見がありますね。

山地: 蒸れた靴下のおいはい当てたくなかったですが…(苦笑)。



山下: 今は保育園もできて、働くお母さんの環境も少しずつ良くなっているみたいですね。

西尾: 看護学科棟が建つ前は、基礎棟?入ってすぐ左側の教室で授業受けてたよねー。春といえども、とにかく寒かった記憶が

あります。もう20年も前になるのね…。

山下: 入口もこんな自動ドアじゃなかったし……。僕はまだ卒業して14年かな(笑)。色々変わりましたが、こうして久々に訪れると、懐かしいものもたくさんありましたね。

山地: 解剖棟もすごくきれいになってましたねー。
久しぶりの母校探険、楽しかったです!!



看護学科棟からの眺め

西尾: ここからの眺めは本当に最高ですよ!晴れの日には琵琶湖がはっきりくっきり見えて最高!

白石: 現在白石は、縁あってこの棟で仕事をしております。
琵琶湖が見たくなったらぜひともお越しください!



新企画、いかがでしたでしょうか?
今これどうなってるの?とか、懐かしいローゼンのおばちゃん元気かなとか、気になる場所のリクエストやレポートも募集しています!
どしどしお寄せくださいませ。

滋賀支部会

第1回 滋賀支部会に参加して

京都学園大学健康医療学部看護学科 助教「湖医会」副会長
山下 敬(看5期生)



平成27年7月12日、草津駅前のポストプラザホテルにて、「湖医会」滋賀支部会がありました。各支部会は関東支部会や大阪支部会など、毎年各地で開催されていますがこれまで滋賀支部会は存在しなかったということで、一昨年の夏より準備をはじめ、今回めでたく第1回支部会の開催の運びとなりました。

参加者は、現在滋賀県内に住んでいる、あるいは勤務している滋賀医大の卒業生が対象で、医学科の1期生から15期生、私の先輩の先輩の先輩…にあたる方々、滋賀医大の教授に就任されている先生や県内の病院長など、たくさんの方が来ておられました。看護学科の卒業生は私一人だけでしたが、総勢30人が集っての会となりました。

主な話題は、滋賀医大の卒業生の動向や滋賀県内の病院事情などの近況報告、これからの滋賀支部会のあり方にまでおよび話題や議論に事欠くことはありませんでした。また医師の定着を目的としたお見合いイベントを「湖医会」で企画できないかという提案もあったりして大いに盛り上がりました。お酒の力も借りながら、こういった面白い企画がこれからどんどん出てくると本会も盛りあがるだろうなと心底思いながら、有意義な時間を過ごすことができました(3時間の予定時間を延長するほどの盛況ぶりでした)。

看護師は増えてきたとは言うものの、滋賀県において看護師不足は解消されず悩まされている病院は多いのが実情です。看護師は足りていますという理想的な充足を満たしている病院は依然として少ないはずで

す。今回の滋賀支部会でも各病院長が深刻な医師不足を訴えておられましたが、同時に看護師不足を問題としている病院に対して、これからの滋賀支部会の方向性

として何か社会貢献できないかと考えています。例えば、復職希望の看護師が病院を探しているとするれば、そんなときに「湖医会」からの情報提供はかなり有益なものになるのではないかと思います。湖医会誌にも、県内の病院からの広告も掲載されていますし、復職希望の看護師や在校生にとってのアナウンスやアピールとしても還元できるのではないのでしょうか。この他にも本会が果たすべき役割はたくさんあると思っています。

滋賀医大の看護学科も、新年度は23期生が入学します。卒業生が滋賀県で活躍できるよう、本会がもっとサポートしていくことが必要だと切に思いました。病院長や大学のトップの先生方だけでなく、師長・副師長さんになられた看護学科の卒業生はもちろん、新卒の看護師さんや保健師さんにも気軽に参加していただくことができれば、肩書を越えて色々な話ができると思うのです。

これから滋賀支部会がどのような方向性で進んでいくのか、決まるのはこれからです。看護学科からの情報発信は今後も継続していきますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

一緒に滋賀支部会、湖医会を盛り上げませんか。



看護学科



交流懇談会

第15回



交流懇談会に参加して



谷本 健斗
(看17期生)

交流懇談会に参加させていただきありがとうございました。今は滋賀医大を離れ京大病院で働いておりますが、卒後もこうして母校との交流の機会を与えて下さることを嬉しく思います。

私は今でこそ看護師の道を進んでいますが、学生時代は何度も他の道に進もうと悩んでおり、その結果5年間の学生生活を送ることになってしまいました。そういった経緯もあり学生さん達が就職にあたり多くの悩みを抱えていることも理解できます。実際に交流会では「実習がしんどくて看護師として働けるか不安」・「就職先はどこが良いかわからない」など色々な声が聞かれました。

看護師という仕事はもちろん技術や思考も大切ですが、何より一番大切なのは人間関係だと思います。良好な人間関係を築くことが出来れば少々仕事がいんどくても頑張っていけます。例え、就職してその病院が合わなかったとしても看護師として働く場所はたくさんありますし、必ず自分にあった職場があるはずですよ。学生時代に仲間と協力し困難を乗り越えたみなさんなら明るい未来が待っていると思います。

最後になりましたがこのような会を開いて下さった関係者の方々に御礼申し上げます。



交流懇談会に参加して

第15回交流懇談会を終えて

野津 瑛未奈 (看護学科3年)

今回の交流会では、先生や先輩方から、国家試験や学生時代になすべきこと、また、将来設計などについてお話を伺うことができました。先輩方の豊富なご経験から直接アドバイスをいただけたことを大変ありがたく思っております。先生や先輩方からのお話は、今後の学生生活や将来について考える際に活かしていきたいです。また、多職種にわたる職務内容についてのお話は、医療現場における他職種連携に繋がっていかうと思います。そして何より、先輩方のご活躍されているお姿を拝見し、少しでも近づくために日々研鑽致したいと強く感じました。

最後になりましたが、開催にあたり、多大なるご支援を賜りました卒業生の皆様、先生方、学生課の皆様、湖医会の皆様にご心より御礼申し上げます。ご多用中にもかかわらずお仕事の調整をいただき、在校生のために貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございました。

藤井 みどり

(看護17期生)

今回、卒業生として初めて交流懇談会に参加させていただき、在校生との交流だけでなく保健師の方、助産師の方といった普段なかなか関わることのできない看護職の諸先輩方と交流することができとても良い機会となりました。在校生のみなさんと話したことで、自分が学生の頃に抱いていた期待や不安などの気持ちを思い出すことができたと同時に、後輩のみなさんの前に出ても恥ずかしくない先輩でいようと気が引き締められました。また、他の看護職の諸先輩方と交流させていただくことで働いている場所は違えども、病を持って生活している方々の支援をしたいという気持ちは変わらないということを再認識することができました。それと同時に病院と地域との連携の大切さに改めて気づくことができ仕事をしていく上での大きな一助を得られました。看護学科交流懇談会は、卒業生として参加させていただいた私にとってほんとうに貴重な一日となりました。ありがとうございました。

2015年度「湖医会」総会 議事録



日時／平成27年10月24日(土) 14:00～15:20

場所／基礎実習棟B講義室

議 題

① '14事業報告及び'14決算について

○原案(資料1-1、1-2)どおり承認された。

② '15事業計画及び'15予算について

○原案(資料2-1、2-2)どおり承認された。

③ その他

○大学(学生・学友)会館の構想について

大学が建設を検討している大学(学生・学友)会館(仮称)の構想について、これまでの状況について報告があった。

※各資料は「湖医会」HPを参照

会費納入のお願い

看護学科は終身会費制(2014年から)

終身会費 20,000円!

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。終身会員でないと、広報誌や卒後5年・10年・20年の同期会の案内などがお届けできないことになります。詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、メールまたはファクスで事務局までご連絡ください。

編 集 後 記

お忙しいなか、記事の執筆をしてくださいました恩師・卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

時が経つのは早く、あっという間に2号発刊となりました。創刊号で多くの卒業生の近況を知ることができ大変懐かしかったという声を頂きました。今回も、様々な場所で活躍されている卒業生からのおたよりが届いております。これからも情報交換・交流の輪が広がっていけばと思っています。

また、今回は編集委員のメンバーで若鮎祭を訪問し、活気あふれる現在の滋賀医大でパワーをもらうことができました。学生時代の初心に戻る良い機会にもなったと思います。皆様も時には母校に足を運び、懐かしさを感じてみませんか?

今後とも卒業生の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。ご意見・ご要望等あればお寄せください。

西尾ゆかり・山地亜希